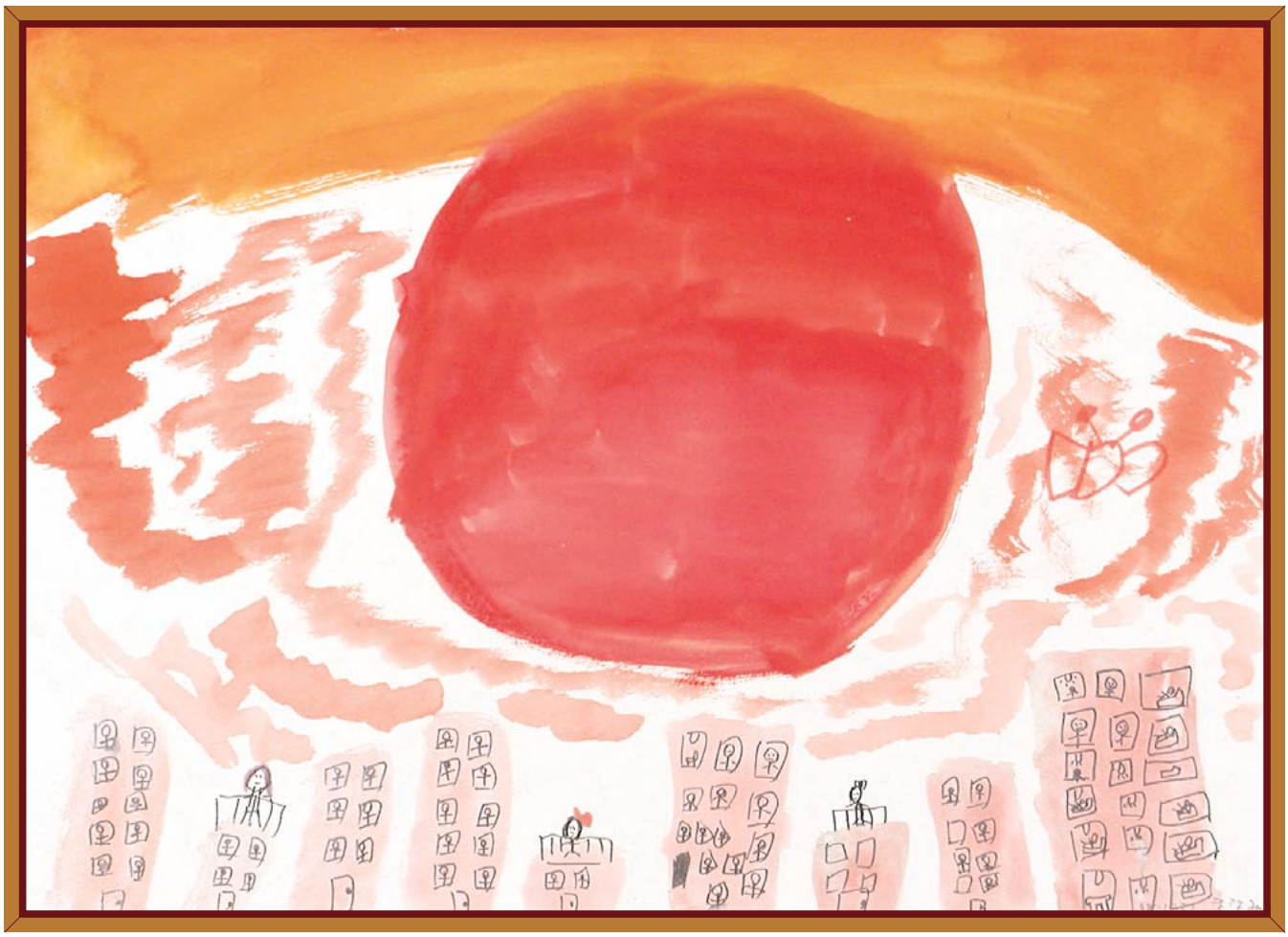
Vol. 127号
2003（平成15）年
1月1日発行

Colony Tokyo

コロニーとうきょう

社会福祉法人 東京コロニー
〒165-0023
東京都中野区江原町2-6-2
TEL 03-3952-6166
FAX 03-5952-6664
http://www.tocolo.or.jp/
（法人本部　事務局）

賀正



アートビリティギャラリー 4　作者　子どものアトリエ・野の花　まなみちゃん（詳しくは15頁をご覧下さい。）

時評「攻撃は最大の防御となるか」―新年にあたって―
「アジア太平洋障害者の十年」最終年フォーラム関連事業を終えて
２００２年度上半期総括事業報告書

法人本部・印刷事業本部（〒165-0023中野区江原町2-6-2）・**コロニー中野・コロニー印刷所**（〒165-0023中野区江原町2-6-7）・**葛飾福祉工場**（〒125-0042葛飾区金町2-8-20）・**立石工場**（〒124-0012葛飾区立石8-50-1）・**コロニー東村山印刷所・コロニー東村山・コロニー東村山第二印刷所**（〒189-0001東村山市秋津町2-22-9）・**ＩＴ事業本部・デジタルメディアセンター・アートビリティ・トーコロ情報処理センター事業部・職能開発室**（〒162-0051新宿区西早稲田2-2-8）・**大田福祉工場**（〒143-0015大田区大森西2-22-26）・**浜松町工場**（〒105-0022港区海岸1-4-17）・**トーコロ青葉ワークセンター・トーコロ青葉第二ワークセンター・トーコロ青葉第三ワークセンター**（〒189-0002東村山市青葉町2-39-10）**国分寺戸倉寮**（〒185-0003国分寺市戸倉1-21-9）**東久留米第一氷川台寮・東久留米第二氷川台寮**（〒203-0004東久留米市氷川台2-31-22）

時　評

「攻撃は最大の防御となるか」
―新年にあたって―

理事長　勝又 和夫
かつまたかずお

一、はじめに

新年明けましておめでとうございます。

言いなれ、聞きなれた言葉ですが、私にとってこの年のこの言葉は、新たな気概を込めた決意表明のように感じられます。

次頁以降において二〇〇二年度上半期事業報告と決算見込、第十八期（二〇〇二年十一月～二〇〇四年十一月）役員および評議員等の選任について紹介させていただいておりますが、わが国の経済の長期低迷と産業構造の激変や社会構造の矢継ぎ早の変革の中で、事業経営や変化する福祉環境への対応にいよいよ待ったなしの年を迎えたという思いです。

前年四月より開始している東久留米市内における知的障害者生活寮は国分寺戸倉寮を含め、利用者の満足を第一に、地域での生活の拠点として将来の発展が望めるものになるか。また、前年十月に印刷事業の再生を期して本格操業を開始した東村山第二印刷所は、その目的を果たすことができるか等、この年度に着手した事業の当初の目的の達成の見極めをつけつつ、併せて既存の各事業についても中・長期的な視点での改善ないしは発展方向の提示が求められる年であります。

一昨年の九月に第十七期役員の残任期間として理事長職に就きましたが、その中では既定方針の確実な遂行と現下の諸問題への対応に追われ、「守りに徹する」といった心境の毎日でした。第十八期の理事長に就くにあたっては、「この法人の経営をいかに攻めに転ずることができるか」が問われることになるとの思いの中でお引き受けしました。

わが国を覆う社会の暗さや時代の変り目の中で「ひとつの組織の確実な明日を創造すること」の大変さは並大抵のことではないと思う一方で、多くの皆様のお力とお知恵をお借りしながら私どもの法人の原点とその軌跡を大切に、その任に耐えたいと決意を新たにしています。〝歴史の巡り合せ〟というか〝たまたまそこに自分が居た〟といったものとして肩の力を抜き、自然体で新たな課題に挑戦していきたいと思っています。

二、福祉環境への思い

二十一世紀に入ってからの数年間は、後世の人たちの多くが「わが国福祉の歴史上の大きな転換点にあった」と言われるような変化の中にあると思います。わが国の現状は、福祉に限らず七百兆円を超える借金漬けの中で、国家予算は新たな借金四十％を加えて初めて成り立つといった異常な状況にあり、多くの国民にとっては「今日は大丈夫だった」と毎日つぶやいているような状況にあるように思えます。

こうした中で社会福祉基礎構造改革がもたらすあらゆる変化は、結局のところ公的な財源の圧縮であり、自己負担の増大でしかなく、私たちに課せられた役割は、社会的により弱い立場にある人たちの側に立っての現状の福祉の峻別において守るべきものを徹底して守る行動であり、そのための環境づくりだと考えています。

この年から始まる「支援費制度」や「新会計基準の完全適用」等、その一つひとつに意見を言い出せば、原稿を何枚書いても書き足りない感じですが、それらのことへの対応は、日常の中で思いを同じくする人たちと行動を共にし、その結果を仲間のものとしつつ、むしろ私たちはこれらの目先の変化の向こうを見通した取組みへの一歩を踏み出す時期にあるように思えています。「行政による指導・監督」「法律や通知・通達への対応」「世間の冷めた目への対応」等、当法人がある時期まで誇ってきた「法律を越えてでも、当事者のために必要なことは為す」とした伝統が消えそうな状況にあります。「人の幸せのために法律はあるべきで、その不備を実践をもって埋める」ことが伝統だったと思います。私はこの伝統を「社会的に（またはその組織内にあって）より弱い立場にある人の幸せを守るため」と置き換え、

場合によっては法人の枠組みを壊してでも新たな福祉環境に立ち向かうべきだと覚悟を決めています。

三、新たな年の当法人

昨年九月に発足した「東京コロニーの運営に関するあり方検討会」（座長・木村良二常任理事）より、十一月の理事会・評議員会に中間提言が示され、来年度の事業計画・予算編成に向けてはこの中間提言にそったもので作業することが理事会において決定されました。

当法人の事業を「福祉工場事業本部（二施設）」「社会就労事業本部（八施設）」「福祉事業本部（三施設）」「ＩＴ（公益）事業本部（三事業）」の四事業本部制に分割し、原則として各事業本部内での処遇等は統一性をもったものとして、将来において全く異なる組織になったとしても各事業本部が独立採算と福祉的整合性がつくものに数年内にはしていきたいとするものです。

各事業本部毎に本部長をおき、各本部長は理事長専決権を理事長と一体となって行使できる程度の権限のもとに、「意志決定のスピード化」や「その本部内での徹底した効率化の追求」「規制等に縛られない事業の展開」等を果たしたいと考えたもので、運営を四分割するとしても法人としてのスケールメリットの枠組みは生かしつつ各事業本部の余力をみながら必要な分野にはその事業本部の事業として大胆に踏み出していきたいと考えています。

新年度の事業計画・予算は一月中に原案が作成されますが、こうした思いがどの程度反映できるか、また、何年でひとつの完成がみられるかは、これからの取組みにかかっていますが、いずれにしても「当法人のあり方検討会」の最終提言にこれらの作業結果が反映できるようにしたいと思っています。

四、新たな年に

一昨年の九月に当法人の理事長に就いて、内部向けにその抱負を「私に出会えてよかったと思ってもらえるように頑張ります」と書きましたが、世の中やどの組織にもいろいろな個性の人がおり、竹中平蔵大臣ではありませんが、だれからも褒められることなんて決してないわけですから、自分の意思や考えを大切にし、「たった一人でも私に出会えてよかった」と言ってもらえるように守りから攻めに転じたこの一年にしたいと思っています。

社会の厳しさの中で、私たちの組織は「ひとの痛みがわかる組織」ですし、この厳しい社会で生きる多くの人たちや組織に思いを馳せ、その中から互いに助け合える関係を築いていきたいと思っています。

本年もよろしくお願いいたします。

第18期 役員および評議員等　　2002年11月28日～2004年11月27日

名誉会長	調　一興	理事長	勝又和夫（兼評議員）
顧問	見坊和雄	常務理事	小松孝良（兼評議員）
顧問	＊中沼和平	常任理事	武者明彦（兼評議員）
評議員	野村　欽	常任理事	入江貞三（兼評議員）
評議員	佐々木洋文	常任理事	木村良二（兼評議員）
評議員	朝日雅也	理事	高山真三（兼評議員）
評議員	加賀山　元	理事	大坪哲夫（兼評議員）
評議員	竹原　悟	理事	手塚直樹（兼評議員）
評議員	比留間ちづ子	理事	飯島　毅（兼評議員）
評議員	鬼頭克介	監事	丸山一郎
評議員	＊松井保彦	監事	加藤一志
評議員	＊君島久康		
評議員	＊岸本美恵子		

＊は新任

ひろば

中野工場

製版室がライブハウスに！

十月十二日、昨年同様秋晴れの空のもと、復活第二回目のコロニーまつりが開催されました。今回のコロニーまつりはライブ会場も含め、東村山第二印刷所に製版～仕上部門が移転したスペースを活用して行いました。中庭では駄菓子屋さんや地域の作業所の出店と車イス試乗、仕上のあった旧館一階では、ＤＴＰのデモとオリジナルカレンダー制作・プレゼント。さらに印刷物のできるまでをパネル展示し、アートビリティ作家の原画や職員の作品の展示など多彩な展示を展開しました。そのおかげもあって、来場者は昨年のなんと五倍。食事を抜きにがんばったグループまで飛び出して、てんてこ舞いの一日でした。

今年の目玉は旧製版室だった地下スペースを使ってのライブコンサート。メインアクトには世界の音楽のエッセンスを取込んだユニークで楽しい歌を聞かせてくれる「ポカポカ」さん。そして、伝説中の名（迷？）バンドであるコロニーバンドが大黒柱の六川係長を中心に復活しました。オリジナルメンバーで満員の客席をひきつけるポカポカさんにコロニーバンドはビートルズナンバーを中心にオリジナルも挟んで大奮闘。立ち見も出る盛況振りでした。最後に横田委員長からメッセージ「晴天のもと、楽しいコロニーまつりが無事終わり、ほっとひと息、皆さんご苦労様でした。」

何度やっても、始まるまでのあわただしさと、無我夢中のまつり当日、そして終わった後の解放感。その落差が、また来年もコロニーまつりをやりたいね、と言わせる原動力なのかな、と感じました。

（総務部　板橋義也）

東村山工場

第十六回東村山車いすミニマラソン

「なによりも笑顔でがんばるきみがすき!!」

今回で十六回目を迎えた「東村山車いすミニマラソン」のキャッチコピーです。当初は多磨全生園を会場として始まった車いすミニマラソンですが、東村山中央公園に場所を移し、回数を重ねてすっかり地域の皆さんに親しんでいただけるイベントになりました。

障害のある人もない人も一緒に同じ場所で、同じ体験を共有できる機会として、また、ふだん車いすに触れる機会のない子どもたちにも車いすを身近に体験できる機会として毎年開催されてきましたが、今年は延べ三一七名の方が競技出場者として参加されました。

ミニマラソンは東村山市社会福祉協議会、福祉事業センター、そしてコロニー東村山印刷所の三団体が主催しています。これらの団体からの何名かの代表者、地域の皆さんや学生さんのボランティアで実行委員会を組織し、事前の準備をすすめてきました。十月二十七日当日にはさらにたくさんのボランティアさんも参

加して合計一三八名の皆さんでミニマラソンを成功させました。

車いすに乗りなれない方にとっては、想像していた以上に大変だったかもしれませんが、今回は「車いすの乗り方講座」も平行して行い、ご好評をいただきました。大きなケガもなく、無事にイベントを終了することができました。また当日ボランティアの皆さんの中にも自分がどれだけ積極的に参加できるか不安があった方もいらしたようですが、いざ動いてみれば他の皆さんとともに役割を果たすことができ、ボランティア活動の大切さや自分自身への自信を身につけられたようです。

ぜひ皆さんも来年はご参加ください。きっと新しい発見がありますよ。

（車いすミニマラソン実行委員　久保田光昭）

大田工場

コロニーまつり

十一月三日（日）、大田工場にて今回で第十六回となるコロニーフェスティバルが行われました。「出会い・ふれあい・街づくり」をテーマに地域住民との交流をはかる目的で毎年行われているフェスティバルも定着してきているのか、開始前からバザー品などを買い求めるお客様の列ができていました。

今年も浜松町工場出店の模擬店をはじめ、各課の催し物（名刺作成・子どもコーナー・菓子・コーヒー）などを行いました。

今まで福祉作業所等の同系列販売がありましたが、今年は大田工場以外の企業を招いての店頭販売も行い工場の内外にとらわれず地域と交流の意味も含めた試みも行いました。工場の中だけで行われてきた今までのフェスティバルとは違い、ご来場するお客様だけではなくフェスティバルにも参加していただくような形が固定されれば、「出会い・ふれあい・街づくり」のテーマの本当の意味に近づくのではないでしょうか。

中央舞台では、マジックショーから始まり、バンド演奏・沖縄音楽・バナナのたたき売りなどが行われ、たたき売りを初めて見たというお子さん、懐かしい、とのご年輩の方々など、好評でした。

協賛企業の方も例年どおりになりがちなところ、実行委員や工場従業員等の働きかけにより、例年の三倍の企業様の協賛協力を得られました。

今後のフェスティバルも、工場内だけでなくより多くの方々がフェスティバルへの参加ができたらと思います。

（第一製造課ＤＴＰ係　山崎裕二）

青葉ワークセンター

初めてのコロニーまつり

今回東村山印刷所と共同開催することになったコロニーまつりには諸事情により、当センターからは一部の人間だけが参加することになりました。

残った人たちは、地域の方々と交流を深めるという目的で「地域交流会」の開催が急遽決定されました。決まったのは、なんと九月に入ってから。

慌ただしさの中、互助会が中心となり準備しましたが、なんとか成功を収めることができたのも、互助会会員のみなさんや保護者の方々、そして地域の方々のご協力の賜だと思います。チラシは簡易印刷したものを、従業員と利用者が汗を流しながら一軒一軒ポストに投函しました。一人でも多くの方をお招きしたいという気持ちを込めながら…。

そんな思いが伝わったのか、開催日の十月十二日はさわやかな秋晴れ

となりましたが、開場するまでは誰も来なかったらどうしようとドキドキものでした。十一時の開場時は来場者もまばらでしたので、何人かのグループに分かれ路上で客引きしたところ、予想外の大盛況！模擬店で用意した二百食の焼きそばとフランクフルトは完売！その他の品物もほとんど売り切れ、閉会予定時間を前倒しにするにまでいたりました。結果はというと、うれしいことにプラスの収支となりました。焼きそばと発泡酒が百円、フランクフルト、綿菓子、チョコバナナ、缶ジュースは五十円と破格だったのにかかわらず、プラスで終えたというのは大変な成果だと自己満足しております。格安の仕入れ先を教えて頂いたご近所の昭和自動車様に厚く御礼申し上げます。

バザーもたくさんの品物が集まり大変な盛り上がりで、折りたたみ自転車（なんと新車！）、プレイステーション、CD、文房具、食器、衣類など飛ぶように売れて、担当者もうれしい悲鳴をあげておりました。次回は地域の方々に加え、他事業所で働く皆さんにも是非来て頂いて、もっと青葉ワークセンターを知ってほしいと思います。青葉最高！

（メールサービス課　高塚孝太郎）

IT事業本部

アートビリティ大賞表彰式

二〇〇二年十一月八日（金）午後一時～三時まで「第十四回アートビリティ大賞表彰式」が開催されました。今年は会場を日本財団ビル一階フロアをお借りすることができ、名称変更後初めての大賞表彰式を新たな気分で開催することができました。

受賞者を中心とした式典には多くのユーザーと作家のみなさまがかけつけてくださって、和やかなムードの中での式典となりました。

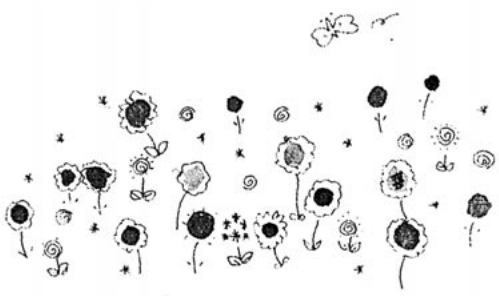
各賞受賞者は以下の通りです。

アサヒビール奨励賞には「尾崎わたる」さん。日立キャピタル特別賞には「久保貴寛」さん。そして、第十四回アートビリティ大賞は「橋本知佳」さんが受賞されました（写真）。各賞それぞれ選考基準などがあり、ユーザー代表・作品審査委員・大賞作家代表などの大賞選考委員によって選定されていますが、中でもアートビリティ大賞は「作品の水準と作家活動の全般に加え、アートビリティへの貢献度や使用状況」を考慮して選定されます。今年の大賞作家も文句なしの作家。満場一致での受賞決定でした。

また、表彰式の後に行なった懇親会では、ヤマト福祉財団スワンベーカリーのコーヒーを出させていただくなど、会話を楽しむだけではなく舌でも楽しんでいただけるといった会となるよう心がけ、おかげさまで参加者からは、楽しかった、来て良かった、などといったお言葉をいただくことができました。

これを励みに、今後とも努力を怠らず、アートビリティ事業の発展に努めたいと思います。

（アートビリティ事務局　宝田多賀子）



法人本部

ゼンコロ創立四十周年記念の集い
ー新しい福祉社会に向かってー
に参加！

去る十一月一日、ゼンコロ創立四十周年記念の集いが中野サンプラザで開催されました。青森から沖縄までのゼンコロ十二法人から約二百名、ご来賓の皆様約六十名の参加があり、その中で東京コロニーからも四十名以上が参加し、都内のゼンコロ会員法人であるあかつきコロニーや東京アフターケア協会の皆さんと共に、当日の会場準備、受付から最後の片付けまで役割を果たしました。

冒頭に、「新しい福祉社会に果たすべきゼンコロの役割とはなにか」と題し、JD藤井常務、きょうされん立岡理事長、大阪市職業リハビリテーションセンター関所長をシンポジストとしてお迎えし、ゼンコロ勝又会長のコーディネートによりシンポジウムが行われました。その後、記念講演として「障害者がはたらくということ」と題し、財団法人ヤマト福祉財団の理事長である小倉昌男氏よりご講演がありました。

ゼンコロ各法人は、厳しい経済環境や支援費制度の導入も含めた行政の動きの中にあって、似た課題をもっており、この日のお話は、とても示唆に富むものであったと思います。

午後六時からは、感謝の集いのパーティとなり、各法人（なんと、きょうされん様の飛び入りも！）が持ち寄った地元の銘品（酒、饅頭、とうふ、果物、パンやクッキーなど）が所狭しと並び、参加者一同、舌鼓をうちました。また、沖縄のエイサー、山形の花笠音頭、青森のはねとなど、衣装も持ち込んでの郷土芸能がにぎやかに披露されました。

また、ゼンコロ会報創刊号から最近号の全容を収めたCDや「復刻版人間回復の砦」が参加者に配布されました。この復刻版は、著者の小林恒夫さんのご快諾を得て、初版発行から二十年を経て、現会長・常務理事・名誉会長および小林さんご自身の新たな文章を追加して今回のために発行されたものということで、私たちコロニーに所属する者にとって改めて読み返したい本です。

これからの新たな十年、ゼンコロとして集まることでのエネルギーが確かな形となって実っていくことを願いつつ…。

（法人本部事務局次長　加藤留美子）

＊日本IBM株式会社様の社会貢献活動パンフレットに、当法人職能開発室へのご援助について紹介していただきました。

デジタル・デバイド（社会福祉）分野への支援

重度障害者教育支援プロジェクト

重度障害者の「Face to Face」教育をめざして

内閣府の刊行する障害者白書によると、日本には約300万人の在宅障害者の方々が生活し、そのうち約30万人は外出困難な1級の肢体不自由障害の方々であると記述されています。こうした重度身体障害者の方々の多くは、移動そのものに困難を伴うため通学が困難であり、そのため充分な教育を受けられず、就労にも結びつけられないという状況が続いていて、熟成されてきた情報化社会の現在でもあまり改善されていません。

日本IBMでは、重度身体障害者の方々のこうしたデジタル・デバイドの状況を改善するための活動として社会福祉法人東京コロニー様が実施する「短期IT講座」を支援しています。

サーバー、コンピュータの画面を通して映像、音声での会話を可能とするソフトウェア、CCD カメラ、ヘッドセットなどの寄贈や、これらを活用した教育の実施・教材開発支援のための資金の支援も実施しています。ブロードバンド・ネットワークを通じて、在宅の移動困難な障害者の方々も、家にいながらにしてパソコンの画面を通じて離れた場所の講師と話す「Face to Face」の研修を受けることができるようにするための支援です。

「アジア太平洋障害者の十年」最終年記念フォーラム関連事業を終えて

広報・記録委員会副委員長
武者　明彦

■二〇〇二年は「アジア太平洋障害者の十年」の最終年であり、新しい十年への展開を求めて三つの国際会議が開催され、皆さまのご協力により無事全日程が終了しました。

一、第六回ＤＰＩ世界会議札幌大会・十月十五日～十八日・北海道札幌市・参加国と地域／一〇九・参加者／三、一一三名（うち海外八四一名、国内二、二七二名）・ボランティア／三、三〇〇名・政府代表、知事、市長、推進議連代表等が来賓参加・「ＤＰＩ札幌宣言」を決議。

二、大阪フォーラム　①第十二回ＲＩアジア・太平洋地域会議　②「アジア太平洋障害者の十年」推進キャンペーン二〇〇二　③国際職業リハビリテーション研究大会　④総合リハビリテーション研究大会の合同開催・十月二十一日～二十三日・大阪府大阪市および堺市・参加国と地域／五十五・参加者／二、四七〇名（うち海外一、二六三名、国内一、二〇七名）・ボランティア／五〇〇名・常陸宮殿下、知事、市長等が来賓参加・「大阪宣言（後述）」を採択。

三、ＥＳＣＡＰ政府レベル政府間会合への参加・十月二十五日～二十八日・滋賀県大津市・ＥＳＣＡＰ加盟・準加盟二十七か国・地域より一二八名（うち閣僚級九名）、国連機関等七機関より十三名、ＮＧＯほか二一二名、合計三五三名が参加・八代組織委員長から「新・アジア太平洋障害者の十年」について説明、提言・「びわこミレニアムフレームワーク」を採択。

■大阪フォーラムで採択された宣言は、以下の四つの柱からなるものです（要約）。

一、障害者の権利条約の早期実現に向け関係機関および団体などと協力・連携しながら全力を挙げて取り組むことを域内各国政府に要望すること。

二、第二の「アジア太平洋障害者の十年」の推進に積極的に取り組むことと、そのためにバリアフリー、コミュニケーション支援、地域リハビリテーション、教育、訓練と雇用、生活支援を、数値目標を定めて実施すること。

三、ＲＮＮを発展させてＡＰＤＦ「アジア太平洋障害フォーラム」とし、各国障害者が参加、各国政府が援助し、長期プランを策定し、モニタリングの定期的検証を含め積極的に取り組むこと。

四、日本とタイの協力によって設立されるバンコクの「アジア太平洋障害開発センター」を拠点とし、障害者のエンパワメントおよび、バリアフリー社会をめざし、自立支援プログラムを策定し、このうちの障害者施策推進センターとして支援体制を作ること。

■十月十日には「アジア太平洋障害者の十年国際会議記念八十円郵便切手」が発売されましたが、切手の絵柄には、アートビリティ作家のさとなかちえさんの作品が採用されました。フォーラムでは、この切手とさとなかさんの他の作品を絵はがきにした「記念切手付き絵はがきセット」を制作し、一セット五〇〇円で販売しています。（次頁ご参照）

■ＡＰＷＤ総会と二つの国際セミナーが十月二十五～二十七日、滋賀県大津で開催されました。五年前に京都で発足されたアジア太平洋障害者ワークセンターネットワーク（略称ＡＰＷＤ）の加盟国・地域九カ国他、国内外合わせて約三六〇名の参加者がありました。

国際セミナーでは、イギリスのショウ・トラストで取組まれている援助付き雇用プログラム（ワークステップ計画）の理念と、多くの雇用を生み出している実践を代表者のティム・パペ氏により講演されました。

もうひとつは、当法人の勝又理事長がセルプ協副会長の立場で日本の障害者就労施策の歴史から現状、さらには新しい提案について講演されました。

■フォーラムでは、全体の運営を賄うために大規模な募金活動をおこなっていますが、十一月十五日現在の寄付金の総額は二〇〇、四九〇、八四八円（中央組織委員会分）にのぼっています。ご協力ありがとうございました。またフォーラムでは、国際会議の事後処理、記録作成を含め、予定されたすべての事業成功裏に終えられるよう「草の根募金」活動を継続しています。引き続きご支援をお願いいたします。

■フォーラム主唱団体である日本身体障害者団体連合会は、同じ主唱団体の日本障害者協議会（ＪＤ）の協力により、最終年を記念するセミナーを十二月に東京都内で、二月に大阪市内で開催します。テーマは「これまでの施策を振りかえり、障害者運動の新しい明日を築く」です。

第六回ＤＰＩ世界会議 札幌大会に参加して

ＩＴ事業本部　職能開発室
鶴田　宏樹

十月十五日から十八日まで北海道札幌市で開催されたＤＰＩ世界会議札幌大会の初日に参加しました。ＤＰＩは一九八一年に発足した障害者の非政府組織（ＮＧＯ）で、四年に一度世界会議を開いています。六回目となる今回の札幌大会には世界百カ国から三千人以上が参加し、特にアジアとアフリカの参加者が多かったようです。

本大会の最大のテーマは、世界の障害者の権利を守る条約、あるいは障害者の差別を禁止する法律などについて考えることでした。基調講演では、ジュディ・ヒューマン氏（世界銀行障害問題顧問・前米国カ教育省次官）が「どのような障害者も行動することです。しかし行動するための条件は、機会均等です。機会がなければ、闘わなければなりません。権利を拡げなければなりません。多くの人の努力の結果、権利を拡げられることは誇りです。」と、機会均等の必要性と、障害者自身が行動していくことの重要性を強調しました。

シンポジウム「ＤＰＩと権利擁護活動～権利条約への道」では、歴代のＤＰＩ議長がパネリストとして参加し、これまでのＤＰＩ運動を再検証するとともに、「条約なくして障害当事者の権利はない。人権に基づく拘束力のある条約が必要」、「他団体とも連携し、明確なメッセージを国連総会に送る必要がある」などの意見が出されました。二日目以降は、労働と社会保障、アクセス、女性障害者など各テーマにそった分科会が開かれるとともに、最終日には、すべての国が差別禁止法を採択し実施すること、および障害者への機会均等を保障する政策を実施することを要求するといった「札幌宣言」が採択されました。

今回の大会では、日本ではそれほど馴染みのない国々からも積極的に意見や質問が出ていました。初日のみの参加だったため具体的な各国の取組みを知ることができず残念ではありましたが、世界的に障害者の権利や差別禁止に関する議論がされていることを知る良い機会となりました。

ＤＰＩのような国際組織は自分たちとはあまり関係がないといった印象を持ってしまいがちですが、ＤＰＩの持っているいくつかの考え方は、世界だけではなく、国レベルでも地方レベルでも必要なものだと思います。日本国内においても、それぞれの地域で草の根の地道な活動を行なっていくことで、地域、国、そして世界の障害者施策を変えていくことが可能なのではないかと思います。

最終年フォーラム会場でアートビリティ原画展示会

デジタルメディアセンター／アートビリティ
吉田　岳史

二〇〇二年四月の事業名称変更の際に「障害者」の表記をはずしたアートビリティは、一貫したポリシーである「才能に、障害はない」を具体化すべく、さまざまな取組みを続けてきました。そうした中、登録作家のさとなかちえ氏のイラストが「アジア太平洋障害者の十年国際会議」の記念切手に採用され、千五百万枚の発行されたことは、新たな第一歩を踏み出した二〇〇二年の、記念すべきトピックスとなりました。

これにちなんで、最終年記念大阪フォーラムの会場となった国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）にて、印刷事業本部の協力のもと、さとなかちえ氏の原画展示会が実施される運びとなり、会場のスタッフとしてフォーラムに参加いたしました。

この企画・実施の目的には、一、実行組織の一員であるコロニーとして企画提案を行い、実施という形でイベントに協力すること、二、記念切手発行というエポックを介し、アートビリティ事業の趣旨と実績を国内外にアピールすること、三、本事業システムと類似した、障害のある人の実質的な経済的支援につながる諸外国のケースを知ること、などを視野に入れて臨みました。わずか五作品の展示ながら、会場が地元郵便局の記念切手販売ブースと隣接していたことと相乗して、多くの方が原画をご覧になり、興味を寄せてくださっていました。

特にアジア諸国の参加者の関心が高く、作家やアートビリティに対する質問や、作品に対する感想、中には原画購入の可否をたずねる方もあり、三については直接的な成果は得られず今後の課題となったものの、一および二の目的については一定の成果が得られたように思われます。

ご存知の通り、二〇〇三年から新たな十年の推進がスタートします。過去十年の成果として、アジア太平

洋地域における法整備、公教育の普及、リハビリテーションセンター等の建設などが加速化されたというひとつの見解がありますが、これからの十年では、テーマも障害の種類も非常に幅広く多岐にわたっている障害者の自立支援活動において、芸術の分野をはじめ情報、スポーツ、観光といった文化的側面の整備・普及・知恵の寄せ集めが各分野横断的に推進されていくものと思われます。障害の如何にかかわらずその芸術的センスにスポットをあて、プロモーションを行うというアートビリティの基本姿勢が、障害者の完全参加と平等実現に向けた世界的な取組みの中で、ひとつの実例として海を越えた認知と普及が進んでいくよう、微力ながらもこれからの十年に携わっていきたいと考えます。

「アジア太平洋障害者の十年」最終年フォーラムに参加して

ＩＴ事業部　職能開発室　堀込　真理子

十月二十一日、早朝の新幹線に乗り、グランキューブ大阪のメインホールでの開会式に参加いたしました。まず驚いたのは、受付に並んでいた世界各国からの人の数。民族服を纏った大きな方々、早口で飛び交う異国の言葉、それらがさながらこれからの三日間の大会を占うかのように、大きなうねりとなって会場にあふれていました。

基調講演では、一度はお名前を目にしたことがある方も多い国連社会開発委員会のベングト・リンドクビストさんが、「障害者の機会均等化に関する基準規則」の総括と障害者権利条約についてわかりやすく報告されました。おっとりとした優しい語りの中に、「世界人権宣言の中の〝全ての人間〟は、本当に〝全て〟の人にこの宣言は直面できていますか」という言葉があり、それはホール全体に静かに響き渡りました。基準規則は現在百三十カ国で広く使われていますが、完璧ではなく、補遺文書など必要なものを出しているとのこと。全ての人のくちびるにそうした権利がのぼるには、やはりロビー活動や市民による圧力が絶対的に必要であることをフロアの皆で再認識した時間でした。しかし初日に驚いたことは、各国がそれぞれ差別禁止法や拘束力のある条約を持っている、あるいは作るべく長年努力しているという事実です。わが国は、そしてわが団体は同じような気持ちをしっかりと抱いて歩んでいるでしょうか。少なくとも私は、それを作成することが我々の日々の取組みにどう影響してくるものであるかをきっちりと認識したことはありませんでした。反省。

分科会は「職業」のカテゴリに参加いたしました。香港政府のマーケティング・コンサルタント局の方の話は、大胆に捉えるなら日本で言うところの授産施設の科目を市場調査する類の話といえるでしょう。競争力のある様々なサービスや製品をマーケットし、何が今の経済の中で主力になりえるのかを常に考えて人的資源をつなぎます。欧米と同じ考え方なのは、教育や職業斡旋を行う担い手が政府ではなく、ＮＰＯであるということ。そのサービスの質の高さを測るしくみを持ち、政府との契約で費用効果の高いサポートを国全体としては提供できているように感じました。

二日間でしたが、世界レベルの講演や話し合いに参加することができ、本当に光栄でした。こうした参加を、「どこかで行われている取り組み」で終わらせるのでなく、真に身近な問題として捉える環境を備えるためにも、有志による研修会、勉強会など、これから職場内でやっていければ、と考えた次第です。

「アジア太平洋障害者の十年」最終年フォーラム関連事業ＡＰＷＤ国際セミナーに参加して

法人本部　内田　崇

十月二十五日～二十八日の日程で滋賀県大津市でＡＰＷＤの総会・国際セミナーが行われ、私はそのうち二十六日の国際セミナーおよび国際シンポジウム(Ⅰ)、そして二十七日の国際シンポジウム(Ⅱ)に参加させていただきました。

国際セミナーではイギリスにおける障害者雇用についての最新事情や日本の障害者雇用の過去・現在・未来についてといった内容を拝聴し、今回のセミナーではイギリスと日本の二カ国でしたが、両国における障害者対策にしても日本は大分遅れているのかなという感じがしました。今までの日本は諸外国に学びながら今までの政策・体制を作ってきましたが、その学び元であるイギリスなどは既にその先の所にいるような気分にさせられました。

と、国際セミナーでは日本の福祉の国際的な遅れといったものを感じてお

りましたが、午後のシンポジウムに入ってからはもう少し深刻な意味で、物事を考えないといけないなと強く実感させられました。アジアの他の国々では日本より経済力や国力が弱い国がありますが、その国々の福祉の現状についてもＩＬＯ条約を批准していなかったり、国内における国際福祉活動の認知度が極めて低かったり、国からの助成もない自力での障害者支援活動を行う団体があったりと、同じアジア諸国での同じ障害者でも処遇の内容にあまりにも格差があることが強く印象に残りました。

今回のセミナー・シンポジウムに参加して、もっと広い視野でものを見ないといけないと実感しました。日本の福祉を良くすればいいだけでなく、良くしたその結果をアジア・オセアニア各国にも広げていく内容にし、いかにバリアフリーな世の中を日本から発信していけるのかもっと考えなければいけないと、とても真摯な気持ちで受け止めております。またこのような機会に参加させていただき、とても感謝しております。

ただ、今回のセミナー・シンポジウムで唯一残念だったことは、これは私自身の問題なのですが、語学力がほとんど無いために百％のお話を拝聴できなかったことでした。次回、このような機会があるときまでにもっと勉強して同時通訳なしに講演を拝聴したり、諸外国の方たちとも積極的に交流を図りたいと思います。

＊ＡＰＷＤ：アジア太平洋障害者ワークセンターネットワーク

ＡＰＷＤ国際セミナーに参加して

中野工場・生産管理課　町田　明美

十月二十六～二十七日、滋賀県は琵琶湖ホテルで行われたＡＰＷＤの国際セミナーに、中野工場の代表として参加させていただきました。

アジア太平洋地域における障害者の就労促進・雇用の拡大を目的としたＡＰＷＤのこの大会は、なかなか知る機会のない諸外国の実態や取り組みなど、いろいろと勉強できた有意義なセミナーでした。

一日目はイギリスの就労支援最新事情、続く勝又理事長による講演（セルプ協の副会長として講演された）で日本の障害者雇用・就労の現状や今後への課題を学び、そしてアジア太平洋地域の諸外国における障害者の就労実態と国際協力について語り合うシンポジウムがありました。二日目はまとめとして、これからの新しい障害者雇用・就労を語るシンポジウムで締めくくられました。

二日間を通じ、私自身の一番の興味・関心は、所属する中野工場がこれから知的障害者通所授産施設を開設して、積極的な展開をしていくために役立つ情報をキャッチするということでした。特に二日目のまとめのシンポジウムは興味深く、いろいろな感想を持てました。現在の中野工場は納期の決められた生産型の仕事のみであるけれど、より多種多様な利用者を受け入れていくために、例えば、芸術活動としての作品づくり（生きがい追求）などの方向性を考えてみるのはどうでしょうか。また別の例として、中野区でも始まったホームヘルパー養成事業との提携なども視野に入れ、資格取得者の派遣事業など、今までとは違ったソフトな感覚の事業展開はどうだろう、など色々と思いをめぐらせました。

そして、今後の事業展開においては中野工場で働く全ての人がもっと積極的に学び、頭を柔らかくしていろいろな情報を集め、みんなで考えて取り組んでいきたいとの感想も持ちました。大事なことだと思います。

最後に、二日目のシンポジストが話していた面白い情報を得られるホームページを探すことができたのでご紹介します。あの堺屋太一氏が軍師（？）を務める「全国自治体／善政競争平成の関ヶ原合戦」というもので、様々なジャンル別に、全国各自治体で取組んでいる画期的な面白い企画や実践を紹介しています。〔http://www.zensei.jp/〕面白いヒントがありそうな気がして、これから時間を見つけて覗いてみようと思っています。

「記念切手付き絵はがきセット」販売中！

2002年10月の「アジア太平洋障害者の十年」最終年国際会議を記念して発行された記念切手２枚と、原作作家さとなかちえの絵はがき４枚をセットにした「記念切手付き絵はがきセット」を、１セット500円で販売しています。

購入ご希望の方は、(1) お名前 (2) 送付先住所、(3) 希望部数を明記のうえ、FAXまたはメール等で法人本部事務局までへご連絡ください。郵便振替用紙を添えて、送付いたします。

二〇〇二年度 上半期総括事業報告書

一、はじめに

国は、社会福祉基礎構造改革の一環として二〇〇三年四月一日より「措置制度」から「利用契約制度」へ移行させることとしていますが、この時期に合わせて「新会計基準・授産会計基準」をはじめとする諸施策を実施していく前提として、これまでの施設ごとの経営から法人単位での経営を求めるとしています。

当法人は、新たなこれらの環境に対応していくため、法人経営および運営体制の見直しを図ることとし、「東京コロニーの運営のあり方に関する検討会」の設置や本年十一月の役員等の任期満了にともなう対応等について検討を進め、理事会等の機能の強化を図る目処をつけつつあります。本年度からは、法人事務局の強化と財務体質の改善に向けて本格的に着手し、併せて事業所長級（三名）を含めた幹部従業員の人事も実施し、これらの施策を通じて法人としての機能強化も図りつつあります。また、本年度決算において新会計基準・授産会計基準での決算処理ができるよう中間決算での特別処理やそのための準備を確実に遂行していくことと、利用契約制度下における当法人の施設サービス内容について整理し明文化した「利用者支援マニュアル」の策定と関係者への配布を終えました。

このような社会福祉基礎構造改革に対応するための法人内部での取組みとともに、各種団体を通じた活動の重要性も高まっていることから、全国社会福祉協議会・全国社会就労センター協議会、東京都社会福祉協議会、日本障害者協議会、社団法人ゼンコロ等における当法人の役割を本年度も積極的に果たしつつあります。

長年にわたる不況や産業構造の変革により、当法人の主力事業である印刷事業は依然として非常に厳しい経営状況にありますが、事業再建に向けてコロニー東村山第二印刷所を九月十三日に竣工し十月一日に開設することで、このことを契機に印刷事業の統合化および再編成を実施し、併せて印刷事業全体のＩＴ化やＩＳＯ認証取得等の課題にも具体的に取組みつつあります。併せて、東京都による大田工場の経営改善委員会の活動も開始されています。

情報処理事業は、本年度も効率的な運営を図るとともに、ネット化社会に応えるより先進的な分野に踏み込んだ事業展開を推進していくこととしていましたが、上半期においてはやや不満足なものとして推移いたしました。

縫製・製袋・防災・安全用品等製造販売事業はトータルとしては黒字基調で推移していますが、縫製・製袋部門の経営改善には手が付いていない状況で推移しています。

メールサービス事業は、事業としては一定の改善をみて推移したが、これは本年度での営業対策等により、事業経営の活性化をはかりつつあることでのものであります。

生活施設は、本年度より東久留米氷川台寮（第一、第二合計定員十二名）を事業開始したことにともない、知的障害者地域生活援助事業（グループホーム）が、国分寺戸倉寮と合わせ合計十六名定員の規模となったため、法人本部事務局のもとに（地域）生活支援課を置き、その管理・運営事務を統括させることといたしました。また、この事業においては、東久留米市内の諸団体等と連携しこの地域での役割を担い、補助金事業化についても取り組んでいくこととしているが、上半期においては運営を軌道に載せることを優先しました。

中野区をはじめ基礎自治体から要望の出ている、地域の福祉ニーズに応えるための事業については、社会事業授産施設コロニー中野の施設閉鎖時期等の確定や同敷地内における知的障害者通所授産施設の設置申請を含め、その具体化を積極的に推進いたしました。

法人全体として、以上の事業を通じて利用者の処遇改善に努めるとともに、「苦情解決事業」や「教育研修の充実」等の実施による質的向上への取り組みも行いつつあります。

二、各事業の個別状況

（1）法人本部

法人全体の全般的諸問題の処理、各事業所の運営を事業計画に沿って確実に行うために必要な実務を行いました。また法人全体の事業運営の円滑化と中・長期的な課題を検討・推進するため、理事会や各事業所長・総務責任者（会議）と日常的に連携をとりながら活動いたしました。

法人全体の運営管理の充実や事業所間の連絡・最新情報の伝達・共有等のために通信ネットワーク

の充実と活性化に努め、また、障害者問題全般についての情報収集と提供を行い、課題解決のために必要な活動を行いました。

本年度に予定いたしました社会事業授産施設コロニー東村山第二印刷所の開設に関する、関東財務局や社会福祉・医療事業団、東京都、日本財団等の事務処理を行い、また中野工場敷地内における新施設計画の調査、準備業務も中野工場とともに行いました。東京都社会福祉協議会（東京都セルプセンター）に対して法人としての社会的な役割の発揮の観点から本年度も支援・協力しつつあります。

（2）ＩＴ事業（ＩＴ事業本部／デジタルメディアセンター・トーコロ情報処理センター事業部・トーコロ情報処理センター職能開発室・アートビリティ事業）

情報処理事業は本年度中を目処に本格的に産業構造の変革に対応できる事業体として各々の事業目的にそった展開ができるものとしていくことにしていましたが、完全には取組みきれない状況にあります。

また、従来からの教育訓練事業や在宅就労事業、さらには市からの委託事業等をそれぞれの事業目的にそって確実に実行するとともに、有料職業紹介事業についても在宅する重度の障害をもつ人たちの就労支援の立場から推進しつつあります。

障害者アートバンク事業は本年度よりその名称をアートビリティとし、より一層登録作家への所得支援活動が充実するよう取り組み、この事業のノウハウを生かした「こどもの絵・com」事業についても本格的に展開を図りつつあります。

（3）印刷事業（印刷事業本部／コロニー中野、コロニー印刷所、コロニー東村山印刷所、コロニー東村山、東京都大田福祉工場）

印刷事業は依然として厳しい状況が続いており、売上高の減少を見込んだ厳しい予算として取組みを開始いたしました。本年度は新工場の事業を最重要課題として軌道に乗せることとし、併せて印刷事業としての経営効率の追求やＩＴ化対応、さらには循環型社会への対応としてのＩＳＯ認証取得等に積極的に取り組みつつあります。

いずれにしてもこの年度をもって経営改善の見通しが得られるよう新工場の確実な立ち上げと各工場の経営状況の改善に努める予定であります。

（4）縫製、製袋、防災・安全用品等製造販売事業（東京都葛飾福祉工場）

縫製部門は、赤字削減のために生産効率の悪い小ロットの受注を減らし、大ロットの受注を安定確保するよう営業展開を図りつつあります。

製袋部門は価格競争がさらに激化しているが、一層の売上増と内製加工の強化を図るとともに、封入封緘事業の技術の向上と営業活動を推進しています。

防災・安全用品等製造販売事業は順調に遂行されていますが、当部門の売上を維持するため、国・特殊法人・地方公共団体・大学・私立高等学校に対する営業活動の促進やホームページを本格的に活用する等により民間に向けても販売活動を行いつつあります。

（5）情報処理、メールサービス、清掃事業（トーコロ青葉ワークセンター・トーコロ青葉第二ワークセンター・トーコロ青葉第三ワークセンター）

生産における絶対量が伸び悩み、競争の激化によって受注単価が低迷していることから、より付加価値を得るための生産体制の見直しを図り、メールサービスに関連した情報処理業務の受注につとめるとともに、新たな作業種目の開拓についても取組みつつあります。

利用者定員の充足以後、二次障害や障害の重度化が目立ち始めており、これらの対策について検討を進めることとしていましたが、支援費制度との関連の中で下半期以降本格的に検討を進めることといたしました。

清掃業務は合築施設全体および近隣施設での毎日の清掃を行うとともに、本年度より中野工場からの受注が得られたことから体制を整え、新たな職域の開拓にも取組みつつあります。

（6）その他の事業

①「ゼンコロ四十周年」および「アジア太平洋障害者の十年最終年」の事業

本年十一月一日に予定する「ゼンコロ四十周年事業」の準備を進めるとともに「アジア太平洋障害者の十年」最終年事業に関しては日本障害者協議会の要請にもとづく、ゼンコロの取組みに東京コロニーとして参加していくことといたしました。

②障害者製作品の販売事業

身体障害者福祉法第二十五条に定めるわが国唯一の指定法人として葛飾福祉工場（製袋事業）およびデジタルメディアセンターを中心に事業を行いつつあります。

三、各事業の概況

（1）上半期経営状況および本年度決算見込みは表１「総括決算損益推移表」に示すとおりですが、前年度よりはやや好転したものとなりました。

表１　総括決算損益推移表

（単位：千円）

		1999年度	2000年度	2001年度	2002年度
１．法人本部	中間決算	△ 13,425	△ 32,460	△ 23,360	△ 33,749
	決　　算	16,143	△ 11,479	12,265	＊ 5,057
	損益累計	102,455	90,976	103,241	＊ 108,298
（1）法人本部	中間決算	△ 13,635	△ 32,641	△ 22,502	△ 31,273
	決　　算	15,889	△ 11,850	12,265	＊ 6,357
	損益累計	102,200	90,350	102,615	＊ 108,972
（2）生活寮（戸倉寮・東久留米第一寮・第二寮）	中間決算	210	181	△ 858	△ 2,476
	決　　算	254	371	0	＊ △ 1,300
	損益累計	255	626	626	＊ △ 674
２．ＩＴ事業本部	中間決算	△ 655	△ 15,651	△ 7,661	△ 17,058
	決　　算	3,182	8,052	3,816	＊ △ 5,750
	損益累計	21,616	29,668	33,484	＊ 27,734
（1）職能開発室（含　事務局）	中間決算	―	1,146	567	924
	決　　算	―	3,934	△ 315	＊ 232
	損益累計	―	3,934	3,619	＊ 3,851
（2）デジタルメディアセンター（含　アートビリティ）	中間決算	4,105	△ 21,512	△ 11,153	△ 20,859
	決　　算	275	△ 4,047	241	＊ △ 12,459
	損益累計	4,942	895	1,136	＊ △ 11,323
（3）トーコロ情報処理センター事業部	中間決算	△ 4,760	4,715	2,925	2,877
	決　　算	2,907	8,165	3,890	＊ 6,477
	損益累計	16,674	24,839	28,729	＊ 35,206
３．トーコロ青葉ワークセンター（含　第二・第三ワークセンター）	中間決算	△ 7,356	19,804	3,713	8,767
	決　　算	△ 11,752	29,136	11,830	＊ 12,563
	損益累計	△ 18,294	10,842	22,672	＊ 35,235
４．印刷事業計	中間決算	△ 69,409	△ 64,822	△ 167,130	△ 107,317
	決　　算	△ 29,159	569,154	△ 84,789	＊ △ 36,638
	損益累計	△ 850,122	△ 280,968	△ 365,757	＊△ 402,395
（1）一般会計	中間決算	7,002	8,042	7,887	14,524
	決　　算	14,215	16,451	15,813	＊ 22,680
	損益累計	△ 52,837	△ 36,386	△ 20,573	＊ 2,107
（2）コロニー中野（含　コロニー印刷所）	中間決算	△ 29,233	△ 9,439	△ 46,304	△ 51,420
	決　　算	△ 49,310	408,782	△ 23,370	＊ △ 66,619
	損益累計	△ 438,644	△ 29,862	△ 53,232	＊△ 119,851
（3）コロニー東村山印刷所（含　コロニー東村山・第二印刷所）	中間決算	△ 6,463	△ 21,029	△ 30,648	△ 22,199
	決　　算	5,480	143,529	470	＊ 7,301
	損益累計	△125,034	18,495	18,965	＊ 26,266
（4）東京都大田福祉工場	中間決算	△ 40,715	△ 42,396	△ 98,065	△ 48,222
	決　　算	456	392	△ 77,702	＊ 0
	損益累計	△ 233,607	△ 233,215	△ 310,917	＊△ 310,917
５．東京都葛飾福祉工場	中間決算	△ 29,896	△ 70,035	△ 2,513	△ 27,791
	決　　算	102,243	△ 7,055	58,210	＊ 29,649
	損益累計	842,112	835,057	893,267	＊ 922,916
合　　計	中間決算	△ 120,741	△ 163,164	△ 196,951	△ 177,148
	決　　算	80,657	587,808	1,332	＊ 4,881
	損益累計	97,766	685,574	686,906	＊ 691,788

＊　見込額

表２　在籍者の推移

自2002年４月１日　至2002年９月30日　（単位：人）

	前年度末在籍者数	期中増減 増員	期中増減 減員	法人内異動を除く主な減員理由 自己都合	法人内異動を除く主な減員理由 疾病、その他	上期末在籍者数
雇用就労者	123	0（　0）	3（　0）	2	1	120
授産施設の利用者	190	5（　2）	18（12）	5	1	177
パート等	7	0（　0）	0（　0）	0	0	7
訓練生等	10	24（10）	6（　0）	1	5	28
障害をもつ就労者　計	330	29（12）	27（12）	8	7	332
障害をもたない就労者	284	12（　2）	8（　2）	5	1	288
合　　計	614	41（14）	35（14）	13	8	620

（　）は法人内異動

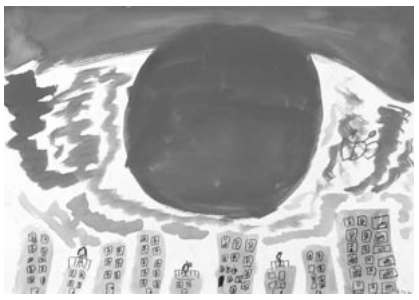
（２）「在籍者の推移」は表２に示すとおり、全事業所合計で期首より六名増の六百二十名（障害者比率五十三・五％）でした。

（３）施設利用者に対する工賃は全体として前年を下回るものでした。

（４）「苦情解決事業」に寄せられた苦情件数は上半期に三件（青葉二件、東村山一件）あり、第三者委員会は一回開催いたしました。

アートビリティギャラリー 4

「朝日」
子どものアトリエ・野の花　まなみちゃん



■アートビリティ

1986年障害者アートバンクとして設立。「才能に障害はない。障害者の才能は、アートの分野において健常者とかわらない」を基本姿勢に活動を続けています。登録作家約400名、登録作品約4,000点、昨年１年間の使用実績は約330点、年間の作品応募は2,000点を超えます。2002年４月アートアートビリティと改称。

まなみちゃんが、小学校二年生のときに、子どものアトリエ・野の花で描いた『朝日』の絵です。

子どものアトリエ・野の花は、子どもたちにテーマや課題を与えず、自由に絵を描いてもらうというユニークな活動をしている絵画教室です。

ここに通う子どもたちはみんな、自主的に自分の描きたいものを自由に表現しています。

まなみちゃんは、そんなアトリエの子どもたちの中でも特に自分の意志をはっきりもっていたお子さんで、アトリエを主宰する相馬昌子先生によると、いつでも自分からどんどん絵を描いていく女の子だったそうです。

遊んでいるときでも、遊びを創造し、他の子どもたちをリードすることの多かった活発なまなみちゃんですが、その反面、とても繊細で感じやすい面も持っていたとのこと。相馬先生は、「今どきの子どもたちの例にもれず、忙しい毎日を送っていたまなみちゃんにとって、アトリエはオアシスになっていたのでは？」とお話してくださいました（まなみちゃんは、引越しをされて、残念ながらアトリエは辞めてしまったとのこと）。

そんな感受性の強いまなみちゃんが、あるとき、大きな大きな朝日を見て感動しました。その感動を絵に描いてくれたのがこの絵です。

まなみちゃんの描いた朝日の絵は、とっても大きくて明るくて、新しい年の始まりにふさわしい希望にあふれた絵だと思いました。

この絵を見ていると、「さぁ、今年もがんばろう！」という気になってきませんか？

まなみちゃん、楽しい絵をありがとう。

まなみちゃんの絵を見て励まされました。

自由に自分の気持ちを表現すると、そこに感動が生まれます。

子どもの絵の醍醐味って、そんなところにあるのかもしれませんね。

（アートビリティ事務局　岡嶋明美）

ご寄付のお願い

社会福祉法人東京コロニーでは、障害のある方への支援を就労や教育、生活の面から数多くの事業を行なっています。めざすことは、それらによる障害者の大きな意味での自律支援です。私共の事業を応援して下さる方（あるいは団体）からのご寄付を、下記を窓口に常時受け付けております。いただいたご寄付は、主に新しい事業の立ち上げや先進的な取組みを行うための財源に充当させていただきます。より多くの方へのより質の高いサービスをめざす当法人の事業に対し、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。
（社会福祉法人への寄付は、税金が免除になります。ご寄付をいただいた際はそのための領収書を発行させていただきます。）

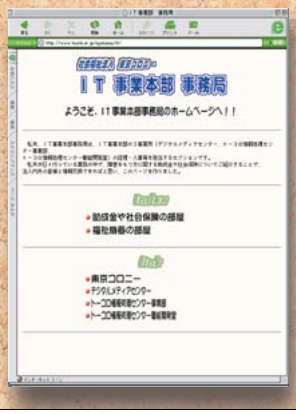
ご寄付受付　社会福祉法人東京コロニー　法人本部事務局（担当　加藤）
〒165-0023　東京都中野区江原町2-6-2　tel03-3952-6166　fax03-3952-6664

東京コロニーのホームページ

東京コロニー メインページ
http://www.tocolo.or.jp/

コロニー中野・コロニー印刷所
http://www.tocolo.or.jp/nakano/

デジタル メディアセンター
http://www.tocolo.or.jp/dmc/



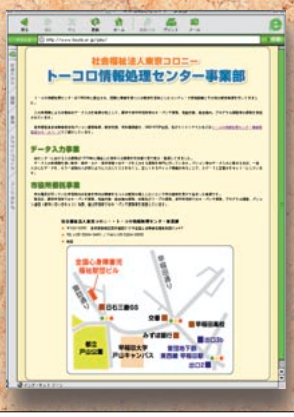
IT事業本部事務局
http://www.tocolo.or.jp/syokunou/it/

コロニー東村山印刷所・コロニー東村山
http://www.hig.tocolo.or.jp/

トーコロ情報処理センター職能開発室
http://www.tocolo.or.jp/syokunou/

アートビリティ　旧 障害者アートバンク
http://www.artbility.com/index.html

東京都大田福祉工場
http://www.tocolo.or.jp/oota/



トーコロ情報処理センター事業部
http://www.tocolo.or.jp/joho/

トーコロ青葉ワークセンター
http://www.tocolo.or.jp/aoba/

東京都葛飾福祉工場
http://www.fireman21.net/

コロニーどうきょう　◎編集／社会福祉法人　東京コロニー　〒165-0023　東京都中野区江原町2-6-2　Tel 03-3952-6166　Fax 03-3952-6664　発行人／勝又　和夫　◎印刷／コロニー印刷